

環境コミュニケーション大賞（環境報告部門） 生物多様性報告特別優秀賞 採点表（令和2年度版）

環境報告としてすぐれていることに加えて、生物多様性に対する取り組みに関する記述に優れた報告を、特に下記の視点等で選考する。

1. マテリアリティ分析、方針、目標等 MAX 50点

① 主要業務におけるマテリアリティ分析 MAX 10点

「3」	マテリアリティの分析をした結果、生物多様性の保全及び生物資源の持続可能な利用に関する影響について分析結果を公表している。
「2」	マテリアリティ分析レベルの総合的・体系的な評価は実施していないが、生物多様性と自社の事業との関係性について分析・課題認識をし、その内容を記載している。
「1」	今後、生物多様性と自社の事業との関係性について分析することなどが記載されている。
「0」	記述なし

② 生物多様性基本方針 MAX 20点

「3」	バリューチェーンに配慮して、生物多様性の保全及び生物資源の持続可能な利用に関する影響を分析し、生物多様性基本方針を制定している、等。
「2」	環境方針又は経営方針のなかに記述がある、等。
「1」	生物多様性に取り組む方針がうかがえる、等。
「0」	記述なし

③ 目的・目標 MAX 20点

「3」	主要業務での生物多様性について、愛知目標、生物多様性国家戦略を踏まえ、数値化された目的・目標が明確に記述されており、目標達成年度を設けている、等。
「2」	本来業務での生物多様性について定性的ではあるが目的・目標が記載されている、等。
「1」	生物多様性に関してフィランソピー（社会貢献活動）としての目標等が記載されている。
「0」	記述なし

2. 取組内容 MAX 40点

① 実施-1：自社グループ内での取組 MAX 10点

「3」	直接管理下にある事業活動に伴う生物多様性への評価を実施しており、ミティゲーション、オフセット等の手段を講じていることを公表している、等。
「2」	工場や施設及びその周辺での生物多様性保全についてのさまざまな活動を実施し、公表している、等。
「1」	生物多様性保全の項目はあるが、生物多様性との関連性が薄いと思われる取組についての記載のみである。
「0」	記述なし

② 実施-2：上下流における取組 MAX 10点

「3」	バリューチェーンマネジメントを含め、生物多様性との関係性が体系的に整理され、バリューチェーン全体を通じて生物多様性に対応している、等。
「2」	特定のバリューチェーンにおける生物多様性への配慮を行っているが、バリューチェーン全体を考慮していない、等。
「1」	バリューチェーンにおける生物多様性に配慮している方針（調達方針、製品設計・開発方針等）はあるが、具体的な内容・取組が記載されていない、等。
「0」	記述なし

③ 生物多様性の保全のための提言を行っているか。 MAX 10点

「3」	グローバルな生物多様性の保全に向けたグループやイニシアチブ [※] 等に参加しているか、又は具体的な提言先と提言内容を報告書に記載している、等。 ※『Biodiversity in Good Company』、『WEF Business for Nature』、『WBCSD Nature Project』など
「2」	国や自治体、業界団体の生物多様性保全に向けた検討会 [※] 等に参加し、取組への協力を行っている、等。 ※『産業と環境の会・生物多様性委員会』、『企業と生物多様性イニシアチブ（JBIB）』、『生物多様性民間参画パートナーシップ』、『事業団体による取り組み』など
「1」	一般的な生物多様性の保全に向けた提言の紹介にとどまっている。
「0」	記述なし

④ その他 植林・植樹、NPO との協働、寄付等について、事業に関係が無いが、生物多様性にとって重要なものについて検討し活動を行っているか。 MAX 10点

「3」	大変すぐれた活動を行っている。
「2」	すぐれた活用を行っている。
「1」	活動を行っている。
「0」	記述なし

3. 総合評価 MAX 10点

上記全体を総合勘案し、マルチステークホルダー向けの環境コミュニケーションとして、独自の創意工夫や先導的な試み等も考慮し、総合評価する。

以上